

令和4年6月1日

水と上手に付き合う

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

6月に入りました。旧暦では6月を「水無月」と言います。「水の無い月」と書きますが、「水の月」という意味があるそうです。田んぼに水を引く時期で、しかも梅雨にも入り、雨がたくさん降る月なので、そのように言われるようになったそうです。

雨の日が多くなるので少し憂鬱ですが、雨が降らないと水不足になり、人間や動植物などの生き物にとっては死活問題です。節水に努め、水を大切に使用したいものです。

また、毎年のように日本各地で豪雨災害が起こっています。事前の警戒を怠らないようにしたいと思います。懐中電灯や非常食等の防災グッズ、避難場所や避難経路の確認を確実にしたいと思います。

水泳学習も始まります。子どもたちには、泳力の向上と体力・気力づくりに励んでほしいと思います。また、着衣水泳も計画しています。水難事故の防止にも留意させたいと思います。水に親しみつつも恐れ、侮らず、水と上手に付き合っていきたいものです。

令和4年6月9日

時の記念日を前に

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

朝の目覚めとともに新しい一日の始まりです。当たり前のことですが、自分史の中で一番新しい一日です。難しいことではありますが、自分史上最新で、最善な生き方をしたいものです。そのように分かってはいても、なかなかできないことも人間の人間らしさなのかも知れません。

人生は日々の積み重ね、思い出でできています。できることなら喜怒哀楽を楽しめる人生を送りたいものです。そして、周囲に感謝しながら、よりよく生きることに貪欲に挑戦し続けたいと思います。

時を戻すことはできません。しかし、過去から学ぶことはできます。ウクライナ情勢の悪化を伝えるメディア報道を見聞きするたびに心が痛みます。今こそ過去の教訓を生かし、平和な国際社会の秩序や良識ある経済活動を展開するときだと思えます。難しい問題ではありますが、人間が起こした問題は必ず人間が解決できる問題だと信じています。

6月10日の時の記念日を前にそんなことを考えました。

令和4年6月11日

子育てメッセージ

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

家庭教育学級で子育て講座を行いました。人間理解や道德性の発達、躰といった内容について、哲学や心理学、脳科学的見解等を紹介しました。また、私自身の子育ての後悔や想いを語らせていただきました。

振り返ってみますと幼少年期の子育ての時期は悲しいぐらいに短い期間です。子育てを楽しむ心の余裕を持ちたいものです。悩みは一人で抱え込まず、周囲の手も借りてほしいと思います。個に応じた日々の関わりが必ずその子に伝わり、実を結ぶ日がきっと来ると信じています。心理的安全性を確保するためにも、お子様の心身をしっかりと抱きしめるアタッチメント行動を今後も大切にしてほしいと思います。

親となることができた出産時の感動や名付けにあれこれと思い悩んだ日々を忘れることなく、今後も親子共々、成長し続けてほしいと思います。一生涯、親は親であり、子は子です。親思う心に勝る親心です。講話をしながら私も親業に今後も励みたいと思いました。

令和4年6月13日

梅雨空に傘の花咲く通学路

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

梅雨入りし、毎日すっきりとしない天気が続いています。そんな中、登校時には、カラフルな傘が通学路に並び、子供たちが元気に登校してきます。

各家庭でそれぞれの時を過ごし、気分のよい日もあれば、ご機嫌斜めな日もあることでしょう。それでも、雨に濡れながらも登校してくる子供たち。学校では友達と仲よく過ごし、大いに学び、充実した時間を過ごしてほしいと願わずにはられません。ランドセルに夢や希望をたくさん入れて登校し、下校時には充実感や喜びを更にいっぱい詰め込んで、自宅へと安全に帰ってほしいと思います。

まだまだ続く新型コロナウイルス感染症対策、梅雨時の食中毒予防、登下校や室内での安全指導、熱中症対策等、6月も配慮すべき点に留意し、子供たちの学びの保障に向けて、職員一丸となって取り組んで参ります。

御家庭でも、子どもたちのやる気を呼び起こす個に応じた声かけ、安全面に対する細かな御指導をよろしくお願い致します。

令和4年6月17日

嬉しいお手紙

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

先日、3年生の男の子にお手紙をもらいました。「校長先生へ、いつもぼくたちが来るときと帰るときに、見守ってくれてありがとうございます。元気がないとき、おはようございますと校長先生が言うと、元気が出ます。本当にありがとうございます。これからもよろしくお願いします。」お手紙には、私とその子の元気いっばいの姿の絵が添えられていました。心温まるお手紙に、歳のせいか涙腺が緩んでしまいました。そして、元気とやる気をもらいました。

梅雨入りし、すっきりとしない天気が続いています。傘をさすと視界も狭まります。日頃通い慣れた登下校の道ですが、慣れているからこそ、安全には十分に気を配ってほしいと思います。思わぬ落とし穴やまさかの坂があるかもしれません。私の願いは、子どもたちが全員元気に安全に登下校できることです。

御家庭でも「行ってらっしゃい」「お帰りなさい」に込められた祈りや願いを、お子様に語り聞かせてください。

令和4年6月20日

父の日に想ったこと

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

昨日は父の日でした。私の場合、父親は二人ともすでに他界していますので、プレゼントを贈ったり、電話をかけたりすることもできなくなりました。

就寝前に元気だった頃の父を懐かしく思い出しました。そして、家族の近況報告、日々の健康や安全祈願、幸せに生きられるようにと両手を合わせました。きっとその願いを叶えてくれるだろうと自分勝手なことを思いました。心が落ち着き、心強くも感じられました。時間を見つけて、墓参りに行かなければと思いました。

人は皆、さまざまな悩みや不安を抱え、必死に生きているのが現状ではないでしょうか。ストレス解消法の一つとして、先祖の墓参りに行き、両手を合わせ、心配事や悩んでいることなどを心の中で語りかけてみてはどうでしょうか。故人を偲び、手を合わせるだけで、効果が表れる人もいるかも知れません。お墓や御仏壇は、むしろ生きている人のためにこそ必要なのではないかと、父の日に改めて思いました。